

きらい

第2学年 学年だより No.14 牧之原市立菅山小学校 令和4年6月16日

授業での一こま 国語「スイミー」

国語では、「スイミー」を学習しています。このお話を使って、あらすじとは何か、主人公がどんな人物なのか考える活動を通して、おすすめの絵本を紹介する流れになっています。

授業が進み、いよいよスイミーが『岩かげに隠れていたスイミーのとそっくりの、小さな魚の兄弟たちを』見つける場面になりました。子供たちの会話を聞いていると、ある疑問が…。

まぐろに食べられたはずなのに、生き残っていた説で話し始める子がいたのです。そこで、『赤い魚の兄弟たちって生き残ってたの？ それとも、新しく見つけたちがう赤い魚なの？』と。

子供たちは、自分の考えを文章や絵を使って話し始めました。生き残っていた派の子は、一回食べられているから「だめだよ。大きな魚に食べられてしまうよ。」と言っているのでは？と話したり、まぐろは、飲み込んだけれど気持ち悪くなって出してしまったのではと言ったり、ずっと一緒にいた兄弟だから最後大きな魚を追い出すことができなんじゃないのかと話していました。

「え、でもさ！」と負けずに、新しく見つけたちがう魚派の子は、岩かげにずっと隠れていた魚だと思うと伝えたり、まぐろに飲み込まれたところを提示し、『一口で、まぐろは、小さな赤い魚たちを一匹残らず飲み込んだ』と書いてあるから、生き残っているはずがない！と主張したり、「おなかをすかせていたまぐろだから、絶対食べちゃっているはず。」と話していました。「そうそう！」「でもでも！」「同じ！」「付け足し！」と反応がたくさん出て、授業が活発になりました。

いろんな意見が聞けて、自分と異なる意見が出てくるのが楽しい、面白い！考えてみんな違うんだ！と感じることができた学習となりました。子供が今1番自分ごとに行っている問いを大切にしようと思い、授業を進めました。大人でも、なるほどね！と考えさせられました。子供の考えてとっても不思議です。話し合いをした後、「今日の授業どうだった？」と子供たちに聞くと、「いろんな考えが聞けて楽しかった！」「みんなたくさん発表していたから、面白かった！」と話してくれました。子供たちが生き生きする授業、これからも目指していきます！

